

平成24年第12回定例教育委員会

平成24年12月26日(水)午後2時3分

江別市教育庁舎 大会議室

出席者	委員長 委員 委員 委員 教育長	長谷川 清 明 相馬 範 子 上野 聡 志 郷 早 見 月 田 健 二	説明員	教育部長 佐藤 哲 司 教育部次長 後藤 好 人 学校教育支援室長 総務課長 荻谷 正彦 総務課参事 木村 藤 義 学校教育課長 三富 一 忠 学校教育支援室参事 伊藤 忠 信 給食センター長 西田 昌 平 生涯学習課長 福井 洋 生涯学習課主幹 小林 則 幸 情報図書館長 永嶋 満 郷土資料館長 大村 勇 二 学校教育支援室参事 斉藤 俊 彦
			欠席者	園部 真 幸 近藤 澄 人
			記録員	総務課総務係長 近藤 澄 人
			傍聴者	3名

1 報告事項

- (1) 平成24年第4回江別市議会定例会の一般質問について
- (2) 平成24年度第2回学校一斉公開アンケート集計結果について
- (3) 平成25年度学校選択制にかかる申請状況について
- (4) 平成24年度全国学力・学習状況調査の結果について
- (5) 平成25年成人のつどいの開催について

2 審議事項

平成24年議案第40号

平成25年度江別市一般会計教育予算要求案について

平成24年議案第41号

江別市立小学校及び中学校通学区域規則の一部を改正する規則の制定について

平成24年議案第42号

第8期江別市社会教育総合計画の諮問について

3 その他

○次回教育委員会予定案件について

○平成25年第1回定例教育委員会の日程について

佐藤教育部長	<p>模を12から18学級とし、11学級以下を小規模校とし、計画対象校区に地域協議会を設置し、理解を得て統合計画を進めるとしています。結果、江北中、角山中の統合が決定し、江小・三小も統合場所は三小側との結論を得て、施設整備基本計画に着手しましたが、角山小は地元合意に至っていません。</p> <p>普通学級が11学級以下の小規模校は、現在小学校9校、中学校4校となっており、小規模校にはメリットもありますが、多人数の競技や合唱、合奏ができないなど問題が指摘されています。このため、現行の計画に基づく取り組みを引き続き進め、26年度以降に結果を検証し、児童生徒数の推移を見極め、今後の学校適正配置の進め方について検討してまいりたい。</p> <p>なお、学校統廃合に当たっては、地域の実情や防災拠点としての役割など、学校の持つ地域的意義を考慮し、十分に地域住民の理解と協力を得る中で慎重に進める必要があると考えています。</p> <p>次に、小規模校に教育格差が生まれまいようどう対応するのかとの再質問ですが、教職員数は小規模校も道教委の定数配置基準に基づいて配置されており、校務については業務の分担、連携により生徒指導や学校運営に支障のないよう対応しています。</p> <p>また、小規模校にはきめ細かな学習指導ができるなどのメリットもあり、必ずしも学力格差は見られません。野球やサッカー、合唱など多人数による部活動等が成立しにくいことへの対応は、隣接する学校間で連携する取り組みができないかなど検討し、教育格差が生じないよう努めてまいりたいと考えています。</p> <p>次に、山本由美子議員です。まず、食育と残食に関し、早寝早起き朝ごはん運動の取り組みと今後の展開についてですが、文科省や道教委も早寝早起き朝ごはん運動を展開しており、市も青空子どもの広場などでこの運動に取り組んでおり、小学校入学の際、年度当初の参観日で保護者に家庭向けのリーフレットを配布し説明しています。</p> <p>今後もこれらを継続し、生活リズムが崩れやすい冬休みに向けて、生活リズムチェックシートの活用を促すリーフレットを配布するなど取り組みを進めていきます。</p> <p>次に、食育弁当の日の成果と反応についてですが、児童生徒が、保護者と一緒に買い物に行く、おにぎりを作る、おかずを1品作る、弁当すべてを作るなど、学年に合わせて選択する方法で実施しました。</p> <p>保護者アンケートでは、子どもから感謝の言葉があり感激した、保護者が食育について考える良い機会になった、食べ残しが減ったなど、肯定的な感想、意見が多数を占めました。</p> <p>学校としても、良かったとの評価がほとんどで、学校だよりなどで、実施結果を各家庭にお知らせしたところです。食育推進に有効と考えられるので、保護者や学校の意見を踏まえ、次年度以降も食育弁当の日を実施していきたいと考えています。</p> <p>次に、学校給食の残食に対する方策についてです。これまで残食を減らすため、栄養教諭による指導や、給食だより等による保護者への啓発、献立や味付けの工夫、地場産の新鮮な食材の使用、ホームページでの産地公表など様々な努力をしてきました。</p> <p>食生活が自然の恩恵の上に成り立つことを理解し、食べ残しを減らすことは重要であり、食に関する指導を一層充実させるとともに、給食だよりなどで家庭への啓発に努めたい。また、配膳、下げ膳の工夫により喫食時間を拡大できないか、各校に検討を要請したところです。</p> <p>次に、残食に対するもったいない運動の学校から地域への展開についてですが、ごみ減量やリサイクルなど、物や自然を大切にすることを育むことは重要と認識しています。子どもたちに、嫌いなものや食べたことのないものも一口食べてみるよう声掛けしたり、食材を大切にする、作ってくれた人に感謝する気持ちを育むことによって、もったいない運動の趣旨が伝わるよう指導してまいりたいと考えています。</p> <p>次に、学校図書館についてですが、学校図書館における貸出し冊数については、記載のとおりです。</p> <p>次に、読書活動の推進については、これまで朝読書やボランティアによる読み聞かせなど、本に親しみを覚え、読書が好きになるような取り組みを実施してきました。</p> <p>読書活動は、子どもが言葉を学び、感性を磨き、表現力を高めるなど、より深く生きる力を身に付けていく上で欠くことのできないものと認識しています。</p> <p>教育委員会としては、道教委が推進している家読などのほか、小学校で高学年が低学年に絵本の読み聞かせを実施している事例など、市内の学校の取り組みを紹介していきたいと考えています。</p> <p>次に、学校図書館の充実についてですが、情報図書館の派遣司書の指導等によって、選書や効率的な廃棄、PTAなどの図書ボランティア活動の充実、学校図書館内のレイアウト改善や新刊本の紹介など、学校図書館の環境は大きく改善したと考えています。</p> <p>学校図書館の機能充実の必要性は認識しており、電算化を来年度末までに終え、電算化後に</p>
--------	---

佐藤教育部長

得られる各種データを利用して本の整備に努めていくこと、児童生徒に対し学校図書館を利用するための基礎知識や技能の普及などを促していきたいと考えています。

次に、学校司書の配置についてですが、当面は情報図書館からの司書派遣を継続し、学校図書館機能の向上にどのような方法が適切か検討してまいりたい。

再質問では、学校司書の配置について、来年度には電算化など、学校図書館の環境整備に一定の目途がつくと考えており、その次のステップとして読書センターや学習・情報センターとしての学校図書館の機能向上にどのような方法が適切か、司書の在り方を含め検討してまいりたい。

次に、干場芳子議員です。性的マイノリティの児童生徒の把握と理解についてですが、教育委員会としては、文科省通知に基づき、各校が個別の事案に応じて、学級担任や管理職をはじめ教職員等が協力して、保護者の意向にも配慮しつつ、児童生徒の立場に立って相談に応じるなど適切に対応することとしています。なお、江別市立の小中学校から、性的マイノリティに関する相談を受けた事例の報告はありません。

再質問は、教職員の認識を深めるための研修の実施についてですが、再度文科省の通知内容等について、校長会を通じて教職員に周知し、確認を促すとともに、今後も情報提供等により理解の向上を図ってまいりたい。

次に、森好勇議員です。就学援助についてですが、就学援助制度の財源は、平成17年度に国の補助制度から地方交付税措置に変わっており、認定基準や支給の費目、支給額については、自治体によって異なっている状況です。実態に見合った単価設定というご質問ですが、就学援助制度は基本的に補助金ですので、必ずしも負担額全額を支給するものではないと考えており、要保護者の教育扶助の基準に準じて、準要保護者についても定額支給または実費支給としています。

宿泊を伴う校外活動費、修学旅行費、新入学児童生徒学用品費等については、国の要保護児童生徒援助費補助金の単価と同額となっています。学用品費、通学用品費、宿泊を伴わない校外活動費については、3年に一度保護者負担額を調査し、実態に合わせ平均的な額で単価を設定しています。体育実技用具費の柔道着やスキー、通学費、給食費及び医療費については実費負担分を全額支給しています。

次に、クラブ活動費、生徒会費、PTA会費の支給についてですが、要保護の就学援助には国から2分の1の補助がありますが、準要保護は地方交付税措置となっています。道内各市で、これらすべてを支給している市は3市、一部支給は1市という状況です。

対象者数の増加に伴い、支給額は増加傾向にあるため、道都市教育長会を通じて、道教委から国に、自治体が行う就学援助については、その充実を図るため、基準を明確にした制度改正及び財源措置の拡大を求めているところであり、他市の状況に留意し、検討したいと考えています。

次に、裏君子議員です。小中学校のエレベーター設置ですが、これまで、身体に障がいのある児童生徒の就学支援策としては、車椅子に対応した施設改修や階段昇降機などで対応してきました。

学校施設整備指針では、既存施設のバリアフリー化についても、障がいのある児童生徒の在籍状況等を踏まえ、計画的推進が重要。施設の運営・管理、人的支援等のサポート体制との連携等を考慮した計画が重要とされています。

障がいのある児童生徒等が安全かつ円滑に学校生活を送ることができるよう、障がいの状態や特性などに応じた施設整備が必要と認識しており、エレベーターについては全面的な改築の場合は基本的に設置し、部分改築や改修の際も同様ですが、学校の構造等、個別の事情を考慮して、設置の可能性を検討してまいりたい。

次に、特別支援学級の設置要望に対する設置に向けた具体的な進め方についてですが、これまで特別支援学級の開設に当たっては、可能な限り本人や保護者の希望に添いながら、入学者の動向や余裕教室の状況のほか、既存の特別支援学級の状況など地域的な条件も考慮してきたところです。各校に特別支援学級を設置することで、児童生徒の通学負担が軽減され、地域の交流等により、地域での生活基盤が形成され、子どもの成長につながるものと考えています。今後もこれまで同様、可能な限り全校設置の方向性で進めていきます。

なお、肢体不自由児については、施設・設備面の対応を要するため、改築の際は、エレベーターの設置を含めてバリアフリー化を進める予定であり、これまでも施設・設備の整備に努めてきたところですが、当面は、拠点校方式の段階を踏まざるを得ないと考えています。

次に、斉藤佐知子議員です。幼稚園就園奨励費補助における子ども3人以上世帯への対応について、従来の第3方式で対応した理由についてですが、第3方式とは夫婦片働きで子ども2人の世帯をモデルに、年少扶養控除廃止の影響による負担を極力生じないように見直した方式

佐藤教育部長	<p>です。</p> <p>年度当初の文科省通知では、国庫補助対象は第3方式に限定されていたので、6月上旬に幼稚園や保護者に対し第3方式による補助金支給までのスケジュール等を提示し、7月末日を申請期限として12月中旬に支給できるよう事務を進めてきたところです。</p> <p>幼稚園就園奨励費補助の実施に当たり、制度の安定的運用と補助金の早期支給が重要と考えていますので、第3方式を採用したものです。</p> <p>次に影響を受ける家庭についてですが、第3方式から第2方式にした場合、子ども3人以上世帯の対象は増えますが、子ども1人世帯は対象外となる世帯が生じるおそれがあり、国は経過措置を設けない予定とのことですので、市も同様に経過措置を設けない考えです。</p> <p>次に、相馬芳佳議員です。学校図書館での人的・物的整備の推進について、新聞の配備状況についてですが、新学習指導要領で教材としての活用が位置付けられており、既に各校で新聞を配備しています。</p> <p>次に、司書派遣事業における総括と問題点ですが、平成18年度から司書派遣事業を実施し、学校図書館の環境整備を進め、朝読書等への支援を行ってきたところ、学校側から高い評価を得ており、児童生徒の学力向上に成果を上げていると考えていますが、派遣時期など問題点もあると認識しています。</p> <p>今後の対応については、学校図書館担当教諭などとの懇談会や学校へのアンケート調査を行い、各校の要望や読書活動の方針などを具体的に把握し、派遣時期や期間、作業内容を見直し、効果的な司書派遣となるよう努めてまいります。</p> <p>次に、今後の学校司書等の配置、司書派遣事業の計画と来年度以降の予算措置に対する考え方についてですが、各種補助金・交付金を活用し、環境整備のために派遣司書を増員してきた結果、様々な成果があり、今後は読書センター等としての機能向上が必要とされています。</p> <p>学校司書については、当面は情報図書館からの派遣を継続し、学校図書館機能の向上にどのような方法が適切か検討してまいります。</p> <p>司書増員に関する再質問には、来年度には電算化など学校図書館の環境整備に一定程度の目途がつくので、こうした環境整備終了後に学校図書館の機能向上について、司書の在り方を含め検討してまいります。以上でございます。</p>
長谷川委員長	<p>ただいま報告のありました平成24年第4回江別市議会定例会の一般質問について、質問等がございましたらお願いします。今回は7名の議員全員から質問を受けています。</p>
相馬委員	<p>まず、高間議員ですが、学校を3つ改築するというのは、市にとっても何十年ぶりのことです。改築に対する思いというものが、ネットとかで時々調べさせていただいています。どんな学校にしようかということ、今までも下にコンビニがあったらいいとか、下に老人施設があって複合化したほうがいいとか、いろいろな意見があったんです。前までは多機能の学校がいいと思っていたんですけども、学校は学校らしい、昔らしい学校でいいのではないかとというのが私の考え、意見です。</p> <p>私は前にセラミックアートセンターを部分的に情報図書館の分館にしたらいいかいいろいろな言っていたんですけども、学校図書館に関しましては、江別太小では学校図書館を地域の方にも利用してもらおうということも出ているようですが、地域の方や一般の方が足を運べる学校図書館があつていいのではないかと考えています。</p> <p>私どもが稚内かどこかへ視察に行ったときに、地域の方と学校図書館が一緒になっているところがありました。学校図書館を地域の方に還元できるということ。そうしますと、一般の方も見えるので、司書も必ず置かなくてはいけないというふうになっていくと思うんです。高間議員の複合的な施設に関して、私は反対なんですけれども、学校図書館に関しては開いていいのではないかなって思います。これから学校を作るに当たって、まだまだいろいろな意見が出されるので、私も今後参考にさせていただきたいと思っています。</p> <p>山本議員も、学校図書館に関してとご飯ですね。早寝早起き朝ご飯運動に関しましては、私どもは前から話してきたので、あえて山本議員の質問について何も申し上げることはないんです。あと、司書の配置は先ほどと同じです。</p> <p>干場議員に関しては、今現在では性的マイノリティの理解のことは難しいんじゃないでしょうか。参考にはさせていただきますけれども、ここまで教職員に対する研修会を実施する必要があるかどうかというの、日本国ではまだちょっと疑問ですね。同性結婚ですら、ヨーロッパでは反対しているといった部分もあるので、性的マイノリティの把握と理解に関しては、まだちょっと難しい部分があると思います。いつも干場議員はいろいろな意見をお話してくださって私も勉強になるんですけども、ちょっとこれは今現在</p>

相馬委員	<p>難しいのではというのが私の意見です。</p> <p>裏議員のエレベーター設置ですが、私の自宅なんかも直してバリアフリー化していますので、バリアフリー化とかエレベーターの設置、それから災害時の避難場所にもなるということで、バリアフリー化はやはり今後検討しなければならない問題じゃないかなと思います。</p>
郷委員	<p>あと、相馬議員の学校図書館の司書ですが、私も司書は賛成です。ただし、予算が無かったらできませんので、相馬議員の関係のほうから、お金の要求をしていただけないかなと思います。以上です。</p> <p>学校改築に向けてのお話で、私は子どもたちがメインで学校はあくまでも子どもたち、児童生徒さんに向けた建て方であるべきとは思っているんですけども、江別市内の児童生徒数が減っていく中で、老朽化していた学校が新築されるということで、災害時における避難所が学校になっていることから、備蓄庫や避難所運営本部の設置スペースなどのスペースが確保できているほうがいいのかと思います。</p> <p>あと、防犯上のことを考えても、だれでもかれでも学校に出入りできるということはないと思うんですけども、各学校のいろいろな取り組みがありますよね。江陽中や江別太小学校の吹奏楽や地域のミニコンサートとかもできたって構わないという言い方は変なんですけれども、地域性をとらえた学校づくりっていうのも必要があるのかなと思います。新しい学校ができていく中で、開かれた学校という話も出ていたと思うんですけども、その地域の子どもたちが後々学校に入った時に、この学校いいわよねっていうような形になるような学校づくりをしてもらえたらという感想を持ちました。</p>
福井給食センター長	<p>あと、食育とかお弁当の成果なんですけれども、回数をこれから増やしていくのかどうなのかっていうところはいかがでしょうか。取り組みとして、そういう計画はありますか。</p> <p>だいたい好評な意見が多かったということで、継続したいと考えていますが、中には負担が大きいという意見もあり、8対2ぐらいで賛成、反対の意見がございました。</p> <p>中には月1回でというご意見もありましたけれども、少数意見と考えていますので、当面は年1回でいきたいと考えています。</p>
郷委員 上野委員	<p>ありがとうございます。</p> <p>学校の建替えということでは、郷さんは郷さんの意見、相馬さんは相馬さんの意見がありますよね。地域に開かれた学校ということ謳っている以上は、それなりの施設や設備といった機能を持たせないと、地域に開かれた学校とはちょっと矛盾してくる部分があるのかなと思います。建替えるに当たって、最近建てた学校を見学させていただいたんですが、総合的にいろいろ考えながら建てた方が、私はいいのかなと思いました。</p> <p>山本議員に関しては、食育弁当の日ということで、今働いていて朝は忙しいので子どもの用意をしながら弁当を作るのは大変で止めてほしいという意見があったということなんですけど、自分の子どもなんだから、それぐらいはしていいんじゃないかなという気はします。</p> <p>それと残食ですが、もったいない運動ということで残食は出ないほうがいいんですけども、どこかの県だか市で、余った給食を調理員さんがもったいないという理由で食べていたということが、議会で報告されていたようなんですが、それもいかがなものかなと思いました。もったいない、少しでも残食を減らそうと思ってやったことだから、私はそういうことで食べてもいいんじゃないかなという気もしないでもないんですけども、前に話が出たようになるべく残食が減るように、どういう方策がいいのか分からないんですけども、なるべく残食が少なくなっていくように改善をしていかなければならないと思います。</p> <p>それと先ほど相馬委員さんも言っていた性的マイノリティですが、最近おネエ系タレントだとか流行っているみたいですが、なかなか難しい部分があると思います。それをつかめというの、先ほど相馬さんが言ったようにまだ難しいんじゃないかなという気はします。個人個人の生きていく上でのそういう部分で、ちょっと表現が難しいんですが、これは難しいなと思いました。</p> <p>相馬議員ですが、新聞の活用ということで新聞は非常に良いと思うんですけども、うちも新聞読めとは言っているんですけども、テレビ欄はちょくちょく見ているんですけども、家でも新聞を読んだほうがいいですよという指導でもしていただけないかなという感じはします。司書は、それなりの予算が付けば、それなりの配置ができる</p>

上野委員 相馬委員	<p>と思うので、今後考えていかなければならないと思いました。以上です。</p> <p>新聞のことなんですけれども、学校現場でちょっと先生とお話する機会があり、新聞をとっている家庭が非常に少なくなって困っているんだと聞きました。大手新聞社も地元新聞社も部数が激減していて、ネット社会となり、新聞も段々売れなくなってきているのかなと思っています。私なんかも、新聞の部数をかなり減らしてますからね。新聞を見ないで育ったという子どもも、ひょっとしたらいるかもしれない。信じられないけれども、新聞が運ばれていない家庭があまりにも多すぎるとというのが、現実なんですよね。そういう意味でも、新聞を図書館に置くのは、いいことだと思います。</p>
上野委員 相馬委員	<p>残食なんですけれども、社会を見ると賞味期限が過ぎると、食べられるんだけれども、どんどん捨てているというのが現実じゃないですか。社会では賞味期限を過ぎたものはどんどん捨てていて、残食指導というのは、私はちょっと矛盾を感じています。</p> <p>賞味期限と消費期限の意味の取り合いですね。賞味というのはおいしくいただける期間ですよと。消費はこの間に食べてくださいという意味合いだからね。</p> <p>賞味期限のことを言ったりすると、今は大騒ぎするじゃない。ついこの間もあったじゃない。社会の風潮がそんなものを売っているということで、マスメディアも大騒ぎしていたじゃない。そういった社会の問題とか残食とか矛盾を感じるんです。一方では、1日でも腐ったお肉のほうがいいっていう意見の方もいるじゃない。でも、1日でも過ぎていたら大変ですよと言って目くじらを立てて、訴訟までする人もいますよね。そこで、残食のことで、教育の現場だけはもったいない運動をするというのはね。</p>
上野委員 月田教育長 郷委員	<p>賞味期限とか消費期限とかはこの管轄なんでしょうね。農林水産省とか。厚生労働省ですね。</p> <p>残食が多いっていう話が出ていて、何パーセントとかというのは前の時に話があったと思うんですけれども、例えば食べる時間を工夫するとかってありましたよね。でもどう頑張っても、変えられない時間っていうのもあると思うんですけれども、給食そのもので今までたくさん詰めていたものをちょっとさらっとめにするなど、量の調節ということはこれから考えたりするんですか。</p>
福井給食センター長	<p>文科省で基準があり、カロリーとかいろいろな栄養素をこれだけ摂りなさいということがあります。よくご飯が多いと言われるんですけれども、主食でこれだけのカロリーを摂りなさいとなると、ご飯はその量になります。確かに、大人が小学校高学年のご飯を食べますと多いと感じることもあるんですが、我々としては必要と考えています。ただし、これはあくまでも平均的なもので、やはり大きくて運動量の多い子はそれでも足りないし、余る子もいます。おかずと違って、ご飯を分け合うということは、なかなか現状では難しいのかなと思います。おかずであれば、最初から少なめにしておかわりができるということもあるんですが、基本的に必要量だと考えています。</p>
佐藤教育部長	<p>文部科学省が定める給食の摂取基準ですが、もう終わったかもしれませんが、パブリックコメントに付されていたと思います。たぶん来年度から厚労省が作った基準に準拠すると、現状は少し多いので、20ないし30キロカロリーだと思うんですが、小学生、中学生の全学年に相当する年齢幅と摂取基準を減少させる見直しが行われようとしております。これが実施されますと、供給量というか提供する量が少し減りますので、残食の改善に多少なりとも効果があるのかなと考えております。</p>
郷委員 長谷川委員長	<p>ありがとうございます。</p> <p>教育長、先ほど新聞を図書館に配布するとありましたが、授業でその新聞を取り上げて、例えば、この記事に対してそれぞれどうだとかという活用実態について、少し教えてください。</p>
月田教育長	<p>特に小学校5・6年生、それから中学校においては、新聞記事を活用した授業を取り入れなさいということで、文科省から通達が来ています。学校では、記事をコピーするなどして、ここに書かれている内容はどんなことだろうか教材として活用していて、相当数の学校で行っています。毎日というわけではありませんけれども、社会科等の授業で使われているのではないかと思います。一紙だけではなくて、先生個人で違う新聞社の記事も持ってきて、同じ記事の内容でも、新聞によってこういうように違うという比較検討もやっていると思います。</p>
長谷川委員長	<p>学校改築は、改築協議会でそれぞれ地域の代表が検討していると思います。私も一時期、相馬さんと同じく、これからの学校は地域に開かれた、そしてもう一つは複合的なものと</p>

<p>長谷川委員長</p> <p>伊藤学校教育課長</p>	<p>いうイメージを持ちました。ところが、現実に本州のいろいろな例を見ると、本来学校というのは児童生徒が勉強する場所だと。そうすると、自ずと制限されるのかなという感じはしています。ただ、いずれにしましても少子化は間違いありません。それに向けた対応、例えば避難所機能は当然求められますが、それらを含めて、これから校舎が建設されると思いますが、いろいろ出たときにまた意見などを出しながら検討していったらどうかと思います。</p> <p>ほかはありませんか。それでは、本報告について終了してよろしいですか。</p> <p>(一同了承)</p> <p>次に、報告事項(2)平成24年度第2回学校一斉公開アンケート集計結果についての報告を求めます。伊藤学校教育課長お願いします。</p> <p>それでは学校一斉公開アンケートの集計結果についてご報告いたします。</p> <p>最初に資料の訂正をお願いいたします。3ページ目の真ん中にあります問8、見学した学校の印象はいかがでしたかという問いの中で、円グラフが3つございます。左側が全体、真ん中も全体、右側も全体となっておりますが、真ん中が小学校、右側が中学校になりますので、大変申し訳ありませんが訂正をお願いいたします。</p> <p>それでは説明に入らせていただきます。第2回学校一斉アンケートを平成24年10月18日に実施いたしました。見学者は立命館慶祥中と札幌盲学校を含め、市内全30校におきまして、延べ801人でありました。</p> <p>アンケートの提出は382件で、見学者の約48%に当たり、回答数は前回の445件から63件減少しております。</p> <p>アンケートの回答であります。問1、見学に来た方のうち、学校に子どもや孫がいるかという問いには、小中学校全体でいるが44%、いないが56%となっております。特に中学校では、いると回答した方の割合が前回の36%から29%へと減少しており、中学校に家族がいない方の見学の割合が増えております。</p> <p>問2で一斉公開に来たのが初めてという方は50%、2回目以上の方が50%となっておりますが、特に中学校では初めてという方の見学が前回の43%から54%へ増加しております。</p> <p>問3の他の学校も見学しますかという問いには、はいが49%、いいえが51%となっております。全体では昨年と同様の傾向ですが、中学校でははいと答えた方が前回の57%から70%へと大きく増加しております。</p> <p>2ページをお開きください。問4の一斉公開は今後も必要かという問いに対しては、97%が必要と思うと回答しております。</p> <p>また、問5で今後も学校に来たいかという問いで、来たいと思うという方が98%となっております。</p> <p>問6の学校は地域に開かれていると思うかに対しては、思うという方が89%となっており、いずれの回答も前回と同様の傾向となっております。なお、開かれていると思わない方の理由につきましては、資料の10ページに記載しておりますのでご覧いただきたいと思っております。</p> <p>次に3ページをご覧ください。問7で、学校行事に協力したいと思うという方が83%と、昨年度の89%より減少となっております。特に小学校での減少が大きいものとなっております。学校行事に協力したいと思わない理由につきましては、同じく10ページに記載しておりますのでご覧いただきたいと思っております。</p> <p>さらに問8で学校の印象として、大変良いと良いを合わせると78%で、減少しております。</p> <p>問9の児童生徒の様子については、大変良いと良いを合わせると78%であり、前回より数値が増加しております。大変良いが小学校・中学校ともに増加し、無回答者の数値が減少しております。</p> <p>この学校の印象として施設関係とそれ以外の印象、児童生徒の様子、さらに江別市の教育についてという3点に自由記述欄を設けました。その内容については、4ページ以降に記載しておりますのでご覧いただきたいと思っております。</p> <p>これらアンケートの自由記載の部分につきましては、当日校長会で各学校に配布し、改善の参考にする予定であります。以上で、説明を終わります。</p> <p>ただいま報告のありました平成24年度第2回学校一斉公開アンケート集計結果につ</p>
<p>長谷川委員長</p>	<p>ただいま報告のありました平成24年度第2回学校一斉公開アンケート集計結果につ</p>

長谷川委員長 郷委員	<p>いて、質問等がございましたらお受けします。</p> <p>いつも、大まかなアンケートの結果は分かるんですけども、例えば、どこどこの小学校は何人くらい来たとかというものの添付は駄目なんですか。例えば、江別小学校は何人くらい見に来た方がいるとか、細かい部分の資料は駄目でしょうか。</p>
伊藤学校教育 課長 郷委員 上野委員	<p>それは添付することは可能でございます。今回の部分も必要であれば、後ほどお渡ししたいと思います。</p> <p>ありがとうございます。</p> <p>第2回の一斉公開ということで、数値的なものはさほど変わらないと思うんですが、学校の印象についてだとか、こういう点で質問ではないんですけども、今回トイレが臭いというのが結構あった。これからトイレの改修工事とかもあると思うんですけども、今回これが妙に多かったのが気になりました。</p> <p>先生に対しての評価がいいのがすごい載っているということは、プラス材料というかい方向へ向いているんじゃないかなという感じがいたしました。</p> <p>5ページ目の廊下に貼りだされている子どもたちの絵がみんな同じに見えますっていうのも、この絵は何について書きなさいという設定なので、みんな同じに書かされたのかなという気がします。</p> <p>一斉公開に参加しているのに、学校の玄関がインターホン対応はどうかというご意見もあったということで、その辺も改善しなければ駄目なのかなと思いました。</p> <p>中学校で見学に来ましたが、どこがいいのか悪いのか分からない。資料も何もない。学校のことを聞きたくて誰もいないというのも、いかがなものかなと思います。このアンケートはどこから来ているか分かるので、その辺は学校に指導していただきたいと思いました。</p> <p>戸が閉まっていてなかなか入りづらいという意見がありますね。中には開いていて入りやすかったという意見もあったんですけども、まだ閉まっている部分が見受けられるので、その辺はちょっとご指導をお願いしたいと思います。</p> <p>今年から2学期制が始まったんですが、まだ終わりもしないのにぜんぜんメリットが感じられないという意見もあったんですが、どういうところからそういう意見が出てきたのか。まだ1年終わっていなく、まだ検証もしていないのにね。あと、先生の服装を先生らしいものにしてほしいという意見は、これはそれぞれ人が受ける印象なので何とも言えないんですが、清潔感のあるような感じを目指していただきたいと思います。</p> <p>小学校、中学校だけではなく、高校も学校一斉公開をしてほしいという記載を目にしたんですけども、公立高校も今年から3日間から4日間、公開授業をやっているんですよ。その辺の周知がまだ行き届いていないので、高校のほうからもこういうことをやっていますよということを周知するよう、私も高校に働き掛けてみようかなと思いました。</p> <p>あと9ページで、どこの学校だか分からないんですが、こんな学校ならいいけど、いかんせん遠い。同じような支援をどこの学校でもしてほしい。近くの学校が嫌なら好きな所へ行けば暴言だというのは、どこを指しているのか気になったところです。</p> <p>その下で、すべての学校に学級支援がほしい。学校よっての極端な差は特色ではなく差別だ。某中学校ではこの子たちに学力はいらんと言って、目的は高等養護学校と書かれているんですが、この中学校がそんなにもアンケートに書かれているようなものなのか、ちょっと気になった部分なので、事情を聞いてみて対処してほしいと思います。私からは以上です。</p>
相馬委員	<p>学校一斉公開って、始まってもう10年は過ぎるんですよ。ほかにどこかで一斉公開をやっている都市ってありますか。</p>
伊藤学校教育 課長 相馬委員	<p>申し訳ありません。把握はしていません。</p> <p>最初始まったときから私はいたんですが、一斉公開をしたときの学校の状態と今の状態はあまりにも違うんですね。学校現場がひどい状態だったのは事実なんです。それで、学校の現場が開かれるっていうことで、先生方、子どもたち、それから親御さんも一緒になって学校づくりをしていったと思うんですよ。ただ、10年経っても何だこの学校っていうのはまだあるんですよ。一斉公開のお客様は地域の方とか、現場じゃない方なんですけど、結局行っても、どこが受付なのか、どこへ行ったらいいのか資料がない学校がまだまだにあるんです。やっぱりこれは指導しなければならないと思うし、結局委員会の責任で</p>

相馬委員	もあるんじゃないですか。私はずっと言い続けているし、ずっとこうやって書かれていて、ある意味ちょっと恥ずかしいですよ。もう10年経っていて、行き場所も分からないとか。これを見ただけで、私はもうむなしくなっちゃって。一般の方に対して、一斉公開でございますよってお知らせしているのに、もうそろそろ失礼じゃないですか。10年経っている以上は、こういうことは絶対あってはいけないということを引きちんと言わないと駄目と、私は言いたいです。それだけです、すみません。
郷委員	確かに分かりますよね。ただ、今日1日一斉公開がありました。その中で5人くらいしか来ない学校があるかもしれないじゃないですか。
相馬委員	いろいろな学校に行くじゃないですか。子どもたちは今日が一斉公開の日だと知らないんです。そういう点で言っても、これからみんなで教育を再生しようというときに、ただやっているだけというのは恥ずかしいと思うんですよ。やる以上はきちんとやってほしいです。
郷委員	私も何回か行ったことがあるんですけども、人は付いていなくても小さい黒板に本日はご来校ありがとうございますと書かれてあって、学校の資料が置かれていたりしていた。ご用の方は校長室へというのは確かに入りにくいですよ。最低限受付は必要だし、もうちょっと、行きやすい方法が何かあるといいのかなという印象はあります。
相馬委員	現実には市内には私立学校がありますね。少子化の中で、選択していくっていう事実があって、私立の中学・高校を選択できる環境に江別はあるってことをしっかり考えてほしい。その私立の学校はどういった感じで一斉公開をしているのかということを引きちんと認識しないと。いつまで経っても、10年間ずっとこのように記載されているのは何なんですかということをあえてこの場で言わせていただきます。
長谷川委員長	伊藤課長、個別にだいたい分かると思いますから、その辺はよろしくお願いします。それと、先ほどトイレのことがあったんですけども、江別は補正予算等を使いながら、ここ2、3年でトイレの改修は進んだと思います。小学校・中学校の改修の進捗率、もう一つは小学校で洋式トイレに慣れているので云々とあるけれども、小学校でトイレを改修するときの洋式と和式の比率を教えてください。中学校は生徒の方が洋式を嫌って、人の使った後に座りたくない、和式を好むと聞いているんだけど、大まかでいいから教えてください。
伊藤学校教育課長	それとちょっと気になったのが、6ページの校区の公園で特別支援学級の男の子に乱暴な振る舞いとあるが、これは個別に対応しているんですよ。
長谷川委員長	はい、対応しています。
三富総務課参事	分からなければ、後でもいいですよ。
長谷川委員長	手元に資料がないものですから、小学校・中学校とも現在46%前後です。それぞれ小中学校で調べているんですが、後日改めて対応させていただきます。
伊藤学校教育課長	ほかございませんか。それでは、本報告については終了してよろしいですか。 (一同了承) 次に、報告事項(3)平成25年度学校選択制にかかる申請状況についての報告を求めます。伊藤学校教育課長お願いします。 平成25年度の学校選択制及び特認校制度による申込み状況についてご報告いたします。 学校選択制につきましては、平成25年度の小中学校入学者の保護者に対しまして、8月24日に制度の案内や申請書等の書類一式を小学校入学者に対しては郵送で、中学校入学予定者には小学校経由により配布しております。 10月15日から11月16日まで選択希望の申請の受付を行いました。その後、申込みの変更を受け、11月20日時点でまとまりました数値につきましてご説明します。 選択希望の申込みは特認校希望者を含んで申し上げますと、小学校で56名、中学校で51名、合計107名でありました。入学予定者全体に占める割合は、小中学校合わせて、5.1%であります。 選択希望者に対しましては、すべて各校の受入れ枠以下の人数であったため、全員に決定の通知を12月13日に郵送したところであります。 前年度と比較しますと、小学校が1名の減、中学校が9名の増で、合わせて8名の増となっております。なお、今回は角山中学校が統合のため、選択の募集を行っておりません。

伊藤学校教育課長	<p>学校別の選択希望者に伴う児童生徒数の増減につきましては、資料のとおりですが、表の左側から4番目、②の25年度において、選択制によるその学校への入学希望者数を記載しております。その2つ右の③は、逆に選択制によりその校区から他の学校を希望した児童生徒数であります。</p>
長谷川委員長	<p>また、表の一番右側の②の内訳はどの校区から何人がその学校を選択したかを記載しております。江別第二小学校を例に取りますと、選択入学者数は4人であり、その内訳は中央小校区から2人、野幌若葉小校区から1人、大麻泉小校区から1人が江別第二小学校を希望したということを表しています。</p> <p>次に、表の左から2番目の①当初校区内の入学者数は12月1日現在の人数で、選択制に伴う人数の増減を加味したものが、表の右側から3番目入学予定者数となっております。その人数を基に算出したクラス数の見込みが、表の右側から2番目の学級数となります。</p> <p>最終的な入学者数は、今後の転入・転居等の移動に伴う分を加えて、来年の4月1日付け学級編制により確定する予定であります。以上でございます。</p> <p>ただいま報告のありました平成25年度学校選択制にかかる申請状況について、質問等がございましたらお受けします。</p>
伊藤学校教育課長	<p>(なし)</p> <p>それでは、本報告については終了してよろしいですか。</p> <p>(一同了承)</p> <p>次に、報告事項(4)平成24年度全国学力・学習状況調査の結果についての報告を求めます。伊藤学校教育課長お願いします。</p> <p>平成24年度の全国学力・学習状況調査結果についてご説明いたします。</p> <p>昨年度は、3月に発生した東日本大震災の影響により、国が実施する全国学力・学習状況調査は中止となりました。ただ、文部科学省は試験問題の配布を希望する教育委員会・学校には試験問題を配布することとし、北海道では北海道教育委員会が国の問題を活用した学力調査として実施され、江別市教育委員会といたしましても参加したものであります。</p> <p>今年度につきましては、平成22年度同様、国が抽出により全国学力・学習状況調査として実施されました。</p> <p>道教委では、独自に道内の抽出校以外の学校においても国から問題の提供を受け実施したのについて、採点・集計を行うとともに、市町村ごとに抽出校及び抽出校以外の学校の結果を合算する集計作業を実施しておりました。</p> <p>去る11月26日に北海道教育委員会より江別市教育委員会にその集計結果が送付され、その結果の分析が終わりましたのでご報告するものであります。</p> <p>それでは資料の1ページをご覧ください。Iの調査の概要です。1の調査の目的ですが、本調査は児童生徒の学力や学習状況を把握・分析することにより、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立することや学校における教育指導の充実や学習状況の改善に役立てるものであります。</p> <p>次に、2の調査の対象学年及び調査を実施した学校・児童生徒数は記載のとおりであります。なお、江別市内の公立小中学校は全校で実施しております。</p> <p>3の調査の内容は記載のとおりで、今年度は新たに理科が実施されておりますが、それ以外は平成22年度と同様であります。</p> <p>4の調査の方式ですが、抽出調査と希望利用方式であり、市内では小学校6校、中学校4校が抽出調査の対象となっております。それ以外の学校は希望利用方式で実施しております。</p> <p>5の調査の実施日は記載のとおりであります。</p> <p>次に、結果の概要であります。まず、教科に関する調査結果であります。教科ごとの全国の平均正答率と江別市の平均正答率の比較であります。その表記の方法について説明いたします。</p> <p>全国平均正答率と比較して、江別市の平均正答率が5ポイント以上上回っているものについては「大きく上回っている」、江別市の平均正答率が、0.1ポイントから4.9ポイントまで上回っているものについては「上回っている」、同じく2ポイントまで下回っているものについては「同様である」、2.1から5.0まで下回っているものについて</p>

伊藤学校教育
課長

は「やや下回っている」、5. 1ポイント以下については「下回っている」という表現になっております。

この表記方法につきましては、昨年度と同様でございます。全国の平均正答率との比較では、小学校では、国語Aがやや下回っているところではありますが、他の教科では同様であるという結果であります。

中学校では、国語Aが同様であるところではありますが、他の教科では上回っているという結果であります。

なお、全道の平均正答率との比較では、小学校・中学校ともに、すべての教科で全道平均を上回っております。

次に、2ページから入りまして、教科ごとの課題等であります。

まず、小学校の国語ですが、正答率の高かった問題は「漢字を読む」・「百科事典を読み、目的に応じて中心となる内容を取り出して書く」であり、正答率の低かったのは「漢字を書く」であります。

課題につきましては、「学年別漢字配当表に示されている漢字を正しく書くこと」や「資料を読み取った上で、質問したい内容を明確にして発表すること」であります。なお、正答率の悪かった問題の例は記載のとおりであります。

次に小学校の算数です。正答率の高かった問題は「加法と乗法の混合した計算」・「中型の跳び箱を8段にした時の高さを求める式を選ぶ」であり、正答率の低かったのは「 $4/5 \div 8$ を計算する」であります。

課題につきましては、「除数が整数である場合の分数の除法の計算ができること」や「硬貨の種類と枚数を比較し、一方の支払いの方が、おつりの枚数が少なくなる理由を記述すること」であります。なお、正答率の悪かった問題の例は記載のとおりであります。

次に小学校の理科です。正答率の高かった問題は「氷砂糖を細かく割った時の全体の重さについて、当てはまるものを選ぶ」・「おしべの花粉がめしべの先につくことを表す言葉を書く」であります。正答率の低かったのは「方位磁針の適切な操作方法を選び、その時の太陽の方位を書く」であります。

課題につきましては、「方位磁針の適切な操作方法を身に付けていること」や「植物の受粉と結実の関係を調べる実験について、結果を基に方法を改善して、その理由を記述すること」であります。なお、正答率の悪かった問題の例は記載のとおりであります。

次に中学校です。まず、国語ですが、正答率の高かった問題は「漢字を読む」・「適切な敬語を選択する」であり、正答率の低かったのは「漢字を書く」であります。

課題につきましては、「文脈に即して漢字を正しく書くこと」や「語句の意味を理解し、文脈の中で適切に使うこと」であります。

次に数学です。正答率の高かった問題は「整式の加法と減法の計算ができる」・「三角柱の展開図として正しいものを選ぶ」であり、正答率の低かったのは「反比例の表を完成する」であります。

課題につきましては、「反比例の関係を表す表から、表中の値を求めること」や「正の数と負の数を用いて日常的な事象を処理すること」であります。

次に理科です。正答率の高かった問題は「成長して種子になる部分の名称を選ぶ」・「白熱電球をLED電球に交換するときに、消費する電力量を減らすために最も効果がある場所を選び、その理由を説明する」であります。正答率の低かったのは「一つの回路で、二つの実験と同じ結果を得るための測定方法を説明する」であります。

課題につきましては、「抵抗の直列つなぎ、並列つなぎなどに関する知識を活用して、他者の実験方法を検討し改善して、正しい実験方法を説明すること」や「花のつくりを模式図に対応させて一般化することや花のつくりを調べて観察の結果を模式図にまとめること」であります。

続きまして、生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査であります。5ページをご覧ください。

児童生徒に行った生活習慣や学習環境に関する質問紙調査の結果で、各設問における江別市の児童生徒が「当てはまる」と回答した割合を全国平均と比較したものであります。

まず、表記の方法ではありますが、全国での回答の割合と比較して、江別市の回答の割合が5ポイント以上上回っているものについては「大きく上回っているA」、0. 1ポイントから4. 9ポイント上回っているものについては「上回っているB」、同じか2ポイン

伊藤学校教育課長	<p>トまで下回っているものについては「同様であるC」、2. 1ポイントから5. 0まで下回っているものについては、「やや下回っているD」、5. 1ポイント以下については、「下回っているE」という表現になっております。</p> <p>まず、小学校ですが、6ページの14番「授業時間以外に、普段1日あたり1時間以上勉強する」、あるいは24番「家で学校の宿題をしている」が「下回っているE」という結果となっております。</p> <p>逆に、48番「読書は好きだ」、16番「学習塾に通っていない」、26番「家で学校の授業の復習をしている」、38番「学級の友達同士で話し合って学級の決まりなどを決めている」、41番「普段の授業で自分の考えを発表する機会を与えられている」、46番「国語の勉強は大切だと思う」、49番「国語の授業で学習したことは、将来社会に出たときに役に立つと思う」が大きく上回っており、Aとなっております。</p> <p>次に、中学校においては、2番「毎日、同じくらいの時間に寝ている」、5番「自分には、よいところがあると思う」、6番「将来の夢や目標をもっている」、14番「授業時間以外に普段、1日あたり1時間以上勉強する」、46番「国語の勉強は大切だと思う」、57番「数学の勉強は大切だと思う」、62番「数学の授業で学習したことは、将来社会に出たときに役に立つと思う」が、やや下回っており、Dという結果となっております。</p> <p>逆に、17番「家や図書館で、普段1日あたり30分以上読書する」、16番「学習塾に通っていない」、26番「家で学校の授業を復習している」、41番「普段の授業で自分の考えを発表する機会を与えられている」が大きく上回っておりAで、この部分の課題といたしましては、毎日、同じくらいの時間に寝ている割合は全国平均をやや下回っておりますが、前年度より増加しております。</p> <p>次に、自分には良いところがあると思っている小学生・中学生は昨年度より増加しておりますが、将来の夢や目標をもっている割合は、小学生では増加しておりますが、中学生では昨年度と同様、全国より低い状況であります。</p> <p>家で30分以上読書する割合は、全国平均を上回っており、読書を好む児童生徒が多いと思われま。</p> <p>学習塾に通っていないが家で学校の授業の復習をしている小学生・中学生は多いところではありますが、授業時間以外に普段1日あたり1時間以上勉強する割合は全国より低く、家庭学習に課題があります。</p> <p>学習に対する関心や意欲・態度は中学生の教科の平均正答率が全国を上回っているが、関心や意欲等の割合は全国平均をやや下回っているという状況であります。</p> <p>続きまして、1枚ものの江別市学校改善支援プランをご覧ください。今年度から、支援プランは1枚にまとめて提示することとしております。</p> <p>まず、全国学力・学習状況調査の結果、明らかになった課題であります。先ほどの調査結果の課題で説明したとおりでありまして、表の中のAに記載しているように漢字を書けないなど、基礎・基本を確実に定着する必要があることやウに記載していますように、家庭学習の習慣が身に付いていないため、家庭における望ましい生活リズムと学習習慣が身に付くよう家庭と連携した取り組みを進める必要があることなど、6項目を掲げております。</p> <p>学校に対する教育委員会の支援であります。表の右下をご覧ください。13項目にわたりまして、列挙しております。現在実施しているものであり、今後も継続して実施をしていく予定であります。</p> <p>特に、2の教職員の指導力向上に向けた支援の(2)江別市教職員セミナーの開催では、北海道立教育研究所などとの連携を強化し充実したものにしていきたいと考えております。また、3の物的・人的支援の(1)小中学校学習サポート事業は学校側からの派遣要望も強く、継続して実施してまいります。(3)学校支援地域本部事業の学習支援活動の実施では、現在、第二中学校、第三中学校、大麻東中学校で行っておりますが、来年度以降市内全域に拡大したいと考えております。</p> <p>課題解決に向けた学校の取り組みについては、表の左下に記載のとおりであります。これら分析結果と支援プランにつきましては、来月の校長会等を通して各学校に情報提供を行い、市教委と学校が連携・協力し、学校改善支援プランの取り組みを通して、教育指導や学習状況の改善を図ってまいりたいと考えております</p> <p>なお、平成25年度の全国学力・学習状況調査につきましては、平成24年12月7日</p>
----------	--

伊藤学校教育課長	<p>付けで文部科学省より通知があり、平成25年4月24日に、小学校6年生と中学校3年生の全児童生徒を対象に、国語、算数、数学で実施されます。</p>
長谷川委員長	<p>江別市内の公立小中学校にあっては、対象児童生徒全員が原則参加することで進めることを考えています。以上です。</p>
相馬委員	<p>ただいま報告のありました平成24年度全国学力・学習状況調査の結果について、質問等がございましたらお受けします。</p>
	<p>学力・学習状況調査について、全国の学力と比較できるくらいになることは非常に望ましいことと毎回話しているんですけども、急に学力が上がるものでもないし、きっかけがあって急に勉強するとかはあるかもしれませんが、全道の中では一生懸命頑張っているということを評価しています。</p>
	<p>生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査を見てみると、江別市に限らず子どもたちの現在の状況が非常によく分かります。小学校では、学校現場の勉強は非常に楽しくしているし、それなりに充実して勉強を一生懸命やっているということで、AとかBが多いですよ。あと、小学校では学習に対する意欲は、ものすごく高いですよ。例えば、中学校だと、国語の勉強は大切だと思う人や数学の勉強は大切だと思う人はDで全国平均と比較してやや下回っていて、将来役に立つと思っている人も、中学校になると急にマイナーになっているんですけども、小学校では非常に国語の勉強が大切なんだという気持ちがある。ということは、学校現場の授業でも先生方が工夫して、ティー・ティーとかいろいろなメニューを作ってやっているの、学校現場の授業について非常に満足しているということが小学校ではすごく分かるんですね。</p>
	<p>中学生になると大人びてくるので、何なのということがあって、でも小学生は勉強って大切なんだっていうのがAばかりなので、如実に出ている。問題なのは、どうして小学生でこんなに漢字も書けない子が出てきてしまったんだということですよ。やっぱり、家庭学習だと思うんですね。学校に対する教育委員会の支援を見て、家庭に対する啓発で、資料の提供しかできないということがもどかしいんですけども、現場に関しては、教職員のセミナーだとか、ALTを付けたりだとか、いろいろなメニューを行っているんだけど、たった一行だけ、家庭への啓発ということだけで、学校現場や教育委員会でもなかなかできないというのがもどかしいんです。</p>
	<p>家庭で1時間も勉強できない、家庭学習が非常に少ないということは、子どもたちにとって、家では勉強よりも楽しいことがほかにあるということですよ。例えば、ゲームとか、それからテレビとか、楽しいバラエティー番組があるから、勉強より魅力のあるものが家庭にあるってということで、家庭で勉強するルール作りをしなければならぬということですよ。毎年それは分かっているんだけど、家庭への啓発が難しい。啓発にも限界がある。あまりにも家の中に魅力的なほかのメニューがありすぎるんですが、各校の各現場では、校長先生、教頭先生がいろいろな講話とかを開いて、家族の方に啓発しているんですよ。それでも、親たちは分からないっていう、先ほど上野さんが言ったように、自分の親としてのネグレクト化というのか、どうしたらいいんでしょうね。ほかの委員さんはどうですか。</p>
郷委員	<p>子どもたち自身に問い掛けている内容ですよ。それで、全体的に見ると国語が大事だと言われている中、私たちもそうなんです、活字に親しんでいない現状があります。活字も大事だし、情報提供としてインターネットなどを用いることも大事であると。学習においては、これからはバランスが大事なのかなという印象があって、算数・数学が中学になると極端に受験向けなのか難しくなりますよね。そうなった時に、将来の目的が見当たらなくなり、こんな勉強したって将来何になるんだというようになってくるのかなと思います。</p>
	<p>小さい子どもたちというのは、何になりたいっていう夢があってすごくいいのかなという気がするんですけど、そういう子どもたちの葛藤があるのかなと思います。子どもたちが進んで勉強に取り組めるように、家庭への、保護者への啓発も大事なんですけれども、子どもたちが勉強する、学ぶことがどうして大事なのかということにもう少し着目した取り組みがいいのかなという印象があります。時間がない中で、出前授業ではないんですけども、いろいろな発見ができたりとか、情報提供ができたりすると、何になりたいということで、そういうところから学習意欲が少しずつ沸いてきてほしいなという希望があります。</p>

長谷川委員長	<p>読書については、小学校・中学校は平均よりいいんですよね。学校で習慣的に長年やってきたことで、それなりに成果が上がってきたんだと思います。</p> <p>今、相馬さんが言ったどうして理解できないんだというジレンマがあるけれども、これは時間が掛かるかもしれないけれども、家庭学習の時間が圧倒的に少ない実態があります。全道でも石狩管内が少ないという数字を一回見たことがあるんです。その反面、テレビを見る時間とか、ゲームの時間が長い。時間が掛かるけれども、この実態を親御さんに伝えて、習慣付けすれば、これは蓄積ですからね。まだまだ全国に比べたら、北海道は圧倒的に家庭学習の時間は少ないです。</p> <p>本州では、小学校1年生になったら幼稚園とは違うんだよ。30分、1時間は家庭で勉強するのが小学校なんだということで、幼稚園と違うというところからスタートしている。だから習慣付けとなっていて、2年生、3年生になったら、家に帰ってきたら1時間勉強するのが当たり前、何も言わなくても子どもはするようになってくる。時間が掛かるけれども、そういう目標に向かって、少しずつ親御さんに理解してもらおう。確かに、子どもが自発的に気付いて、楽しいなって思うことが一番大事だと思うけれども、確かにじれったいですね。</p>
相馬委員	<p>いじめの問題だって、そうなんです。結局、いじめとか学力は全部学校現場におんぶに抱っこでは解決できないんですよね。</p> <p>いじめ、学力が低いというのは、全部学校が悪いんだとか、すべて学校のせいにするという風潮があるじゃないですか。全部現場に押し付けるとなると、結局いつまで経ってもこの結果なんです。その辺は、やっぱり私どもが大きな声を出さないといけないんです。</p>
上野委員	<p>低学年のうちにそういうふうに習慣付ければということでしたが、1年生の入学式に行ったら、ほとんどの保護者の方は入学式に来て、たぶんクラス懇談みたいなものがあると思います。そういうときに、ちょっと発信してあげるとか、工夫してやってみてですね。</p>
郷委員 上野委員	<p>積み重ねです。担任の先生から、家庭学習も大切ですよっていうことを発信して、1年生のうちからそういう習慣が付けばね、委員長が言ったようになってくれればいいかなと思います。</p>
長谷川委員長	<p>いろいろと時間が掛かりますけれども、辛抱強く機会があるごとにですね。</p> <p>それでは、本報告については終了してよろしいですか。</p> <p>(一同了承)</p>
小林生涯学習課長	<p>次に、報告事項(5)平成25年成人のつどいの開催についての報告を求めます。小林生涯学習課長お願いします。</p> <p>資料はございません。平成25年の成人のつどいにつきましては、年明けの1月13日曜日の午後2時から、平成11年以来分散開始から14年ぶりに市民会館1会場で実施いたします。また、早朝からの着付けや髪結いの時間に配慮いたしまして、前年より2時間繰り下げて実施いたします。</p> <p>今回の対象者は、平成4年4月2日から平成5年4月1日生まれの方で、対象者数は男性が810名、女性が758名の計1,568名で、昨年より65名の減となっております。</p> <p>当日は、市長にご祝辞をいただき、市議会議長、道議会議員にご臨席いただく予定です。今回も、成人者の代表者による実行委員会を設け、決意発表のほか、新たにオープニングのアトラクションに和太鼓の演奏を予定しています。</p> <p>平成24年の参加状況は、3会場合計で1,111名、平均の出席率では68.0%となっております。以上でございます。</p>
長谷川委員長	<p>ただいま報告のありました平成25年成人のつどいの開催について、質問等がございましたらお受けします。</p>
相馬委員	<p>会場が一つにまとまるっていうことは、少子化の影響なんですよ。今まで3つに分けられて、私どももお祝いの言葉を述べさせていただいたんですけども、今度は市長はじめ、議長、それから道議会議員さんのお祝いがあるね。式でなくても、つどいになっているので、子どもたちが実行委員会で作り上げて、去年も良かったんですけど、今年も去年以上に盛り上げてほしいと思います。あと、何年ぶりで1会場にまとまったんですか。</p>
小林生涯学習課長	<p>14年ぶりです。</p>

長谷川委員長	<p>高校時代の同窓と会いたいとなると、場所が違うとなかなか会えないという声を聞いたことがあるんです。場所が1か所になると、いろいろな人に久しぶりに会えるし、いいのかなと思います。</p>
相馬委員 長谷川委員長	<p>成人式ではなくつどいですから、同窓会にもなっていますよね。 それでは、本報告については終了してよろしいですか。 (一同了承)</p>
佐藤教育部長	<p>続いて、2の審議事項に入ります。 平成24年議案第40号平成25年度江別市一般会計教育予算要求案についての説明を求めます。佐藤教育部長お願いします。</p>
	<p>議案第40号平成25年度江別市一般会計教育予算要求案ですが、前回もその前にもご説明していますが、要求額とか金額をお諮りしているということではありません。法に基づく教育予算に関しての教育委員さんからのご意見をいただくという場面でございます。 予算編成の基本方針から数えて、今回3回目のご審議ということになります。査定作業あるいは国からの予算の前倒しといった要因がありますので、必ずしもここに記載のような当初予算額になるという現状にあるわけではございません。 本日はこれまでご説明してきた内容からの変更点について、課長から改めて説明の上、ご意見をいただこうとするものでございます。 いずれにいたしましても、予算規模は要求ベースではありますけれども、学校の改築が主な原因となり極めて大きな増額の要求になっております。内容については、順次各課長からご説明をいたします。</p>
長谷川委員長 三富総務課参事	<p>それでは順次、三富参事からお願いします。 私から、平成25年度教育予算要求案主要事業として、総務課施設係が担当する事業で変更となるものについてご説明します。</p>
	<p>資料の4ページをお開きください。中ほどで、総務課施設係の上から2段目、学校施設整備事業（中学校大規模改造）の大麻中学校トイレ改修工事、平成25年度要求額1億745万9,000円のうち、7,543万5,000円及び総務課施設係の上から6段目、学校施設整備事業（小学校大規模改造）の文京台小学校・大麻小学校トイレ改修工事、平成25年度要求額としては1億3,353万円のうち、1億256万5,000円は、平成24年度学校施設環境改善交付金を予定しており、平成24年度3月補正予算により、平成25年度へ繰り越し事業として実施するため、変更となるものであります。変更については以上です。</p>
伊藤学校教育課長	<p>学校教育課所管分について、ご説明いたします。 5ページをご覧ください。1か所訂正をお願いいたします。上から4段目の情報教育推進事業についてであります。電子黒板の購入に関する経費が漏れておりましたので、追加願います。</p>
	<p>主な内容の欄で、教育用パソコン更新275台の下に、電子黒板68台を追加願います。また、平成25年度要求額の欄が1億7,769万7,000円となっておりますが、電子黒板購入経費4,218万5,000円が増額となりまして、2億1,988万2,000円に訂正願います。 では、説明に入ります。上から11段目のキャリア教育推進事業についてであります。この事業は、中学生が連続3日間、職場体験を行うものであります。前回までの説明では、実施校を5校で予定し、その必要な経費として58万5,000円を要求予定でしたが、来年度の実施要望を学校に確認したところ、6校から実施要望があったため、1校分の費用を増額し70万2,000円と増額して要求するものであります。学校教育課所管分は以上であります。</p>
小林生涯学習課長	<p>生涯学習課所管について、変更のある部分についてご説明申し上げます。 8ページをお開き願います。上から4段目、林木育種場旧庁舎保存活用事業であります</p>
	<p>が、外壁改修工事費用予算を要求項目としてお示ししておりましたが、林木育種場の在り方についてももう一度しっかり調査・研究をした上でと考え、要求項目から外しております。 なお、新規といたしまして、保存活用策の外部委託費用を要求しておりますが、予算査定に当たっての協議の中で、企画課の事業である大学連携事業の中での研究事業として実施できないか検討してはどうかとの話が出ています。 次に、9ページ3段目の江別市体育協会補助金であります。児童生徒の体力及び運動能</p>

小林生涯学習課長	<p>力向上を図るため、日本陸上競技連盟主催のキッズ・アスリートプロジェクト夢の陸上キヤラバン隊を招致する予算を要求しておりましたが、日本陸連の事業見直しがあり、未実施の県が優先され、江別市開催は見送られました。このため、平成25年度の予算要求額100万円を取り下げるものでございます。その結果、江別市体育協会補助金につきましては、173万6,000円に修正願います。以上です。</p>
大村情報図書館長	<p>情報図書館の所管についてご説明いたします。 資料の9ページをご覧ください。情報図書館の担当部署の上から1行目、子どものための読書環境整備事業ですが、学校図書館への司書派遣につきましては、学校図書館の環境整備や学習支援など事業を精査しまして、より充実させていきたいと考えております。以上です。</p>
長谷川委員長 相馬委員	<p>ただいま説明のありました本件に対する質問等がございましたらお受けいたします。 昨年は細かいことをいろいろ言ってしまったんですが、今回は一点だけ聞かせてください。 要求額は、倍までいなくても36億円で、今までは25億円ぐらいでしたか。ハード面で学校改築、トイレ改修など、いろいろな予算があるなと感じます。</p>
大村情報図書館長	<p>情報図書館の大村館長にお聞きしたいんですが、子どものための読書環境整備事業は予算要求額が倍以上になりましたよね。この内容は、司書さんの数が増えるだとか、児童生徒の学力向上のための朝読書や調べ学習などへの支援が内容となっていますが、ちょっと具体的に教えていただきたいんですけども。 今年度は、派遣司書6名で、小学校13校、中学校4校の合計17校に派遣しております。 今後の展開なんですけれども、派遣の内容で、業務内容が変わってきておまして、これまでは図書室内の環境整備や電算入力のため、一つの学校にある程度まとまった期間、常住するということが必要でございました。それが、環境整備も順次完了してきており、学校からの要望も朝読書や調べ学習などへの学習支援に移ってきております。そうしますと、常駐ではなくてもより多くの学校を回るという効率も考え合わせますと、例えば週に2回巡回するというようなことも、今後の選択肢として考えているところでございます。実際に派遣になります司書や派遣先の学校側の意見も取り入れながら、検討していきたいと考えています。</p>
相馬委員 大村情報図書館長 長谷川委員長 郷委員 長谷川委員長	<p>それから、増額になった部分ですが、実は今年度光交付金が交付されておまして、そちらで手当てされている部分が、一般備品購入費として150万円ほど図書購入費として割り当てられているものが、来年度については交付金がなくなりますので、こちらの方に算定しているという状況になっております。 今まで6名もいませんでしたよね。確か2名、3名でしたよね。 今年は6名です。昨年度は緊急雇用がありましたので10名いました。 ほかにありませんか。 分かりやすく載っているので、見やすいと思います。 それでは、平成24年議案第40号平成25年度江別市一般会計教育予算要求案についてを承認することにご異議ありませんか。</p>
伊藤学校教育課長	<p>(一同了承) それでは、そのように承認いたします。 次に、平成24年議案第41号江別市立小学校及び中学校通学区域規則の一部を改正する規則の制定についての説明を求めます。伊藤学校教育課長お願いします。 平成24年議案第41号、江別市立小学校及び中学校通学区域規則の一部を改正する規則の制定についてご説明します。 平成24年第9回定例教育委員会の決定を受け、角山中学校の中央中学校への統合に係る通学区域の変更につきまして、江別市立小学校及び中学校通学区域審議会へ諮問したところでありました。 その結果、資料の4ページにありますとおり11月27日付けで答申がありましたので、江別市立小学校及び中学校通学区域規則の一部を改正する規則の制定について次のとおり提案します。 1ページをご覧ください。1の改正理由であります。平成25年4月1日に角山中学</p>

伊藤学校教育課長	校が中央中学校へ統合となることに伴い、当該校の通学区域を変更するため、江別市立小学校及び中学校通学区域規則の一部を改正するものであります。
長谷川委員長	<p>2の改正規則の内容につきましては、2ページをご覧ください。同規則のうち、別表第2中央中学校の項中、中央小学校を角山小学校及び中央小学校に改め、同表の角山中学校の項を削るものであります。</p> <p>また、附則として、この規則は平成25年4月1日から施行することとしております。なお、新旧対照表を3ページに記載しております。</p> <p>また、資料の最後5ページになりますが、統合後の中央中学校の通学区域の範囲が分かるよう図面を添付しておりますのでご確認ください。以上、ご審議のほどよろしく願いたします。</p> <p>ただいま説明のありました本件に対する質問等がございましたらお受けします。</p> <p>(なし)</p> <p>それでは、平成24年議案第41号江別市立小学校及び中学校通学区域規則の一部を改正する規則の制定についてを承認することにご異議ありませんか。</p> <p>(一同了承)</p> <p>それでは、そのように承認いたします。</p>
永嶋生涯学習課主幹	<p>次に、平成24年議案第42号第8期江別市社会教育総合計画の諮問についての説明を求めます。永嶋生涯学習課主幹をお願いします。</p> <p>議案第42号第8期江別市社会教育総合計画の諮問についてご説明いたします。</p> <p>本件につきましては、既に策定スケジュール等のご説明を行ったところであります。</p> <p>第8期江別市社会教育総合計画の策定に当たりましては、次期江別市総合計画をはじめ、その他関連計画との整合性を図るとともに、市民の要望・意見などを踏まえ、さらなる時代の変化に対応した社会教育の展望と目標を設定する必要があります。</p> <p>社会教育委員は、別添資料のとおり社会教育法第17条の規定により、社会教育に関し、教育長を経て教育委員会に助言するため、社会教育に関する諸計画を立案すること、定時又は臨時に会議を開き、教育委員会の諮問に応じ、これに対して意見を述べることと記されております。</p> <p>以上のことから、教育委員会といたしまして、社会教育委員の会議に対し、第8期江別市社会教育総合計画の立案に当たり、社会教育に関する意見を求めたいと考えております。なお、答申は平成25年12月を予定しております。以上、よろしくご審議くださいますようお願いいたします。</p>
長谷川委員長	<p>ただいま説明のありました本件に対する質問等がございましたらお受けします。</p> <p>(なし)</p> <p>それでは、平成24年議案第42号第8期江別市社会教育総合計画の諮問についてを承認することにご異議ありませんか。</p> <p>(一同了承)</p> <p>それでは、そのように承認いたします。</p>
木村総務課長	<p>続いて、3のその他に入ります。</p> <p>次回定例教育委員会予定案件及び日程について、説明願います。</p> <p>次回の教育委員会の案件でございますが、報告事項として、先ほど説明がございました平成25年成人のつどいの出席状況について、それから審議事項といたしましては、3月定例会に提出を予定される補正予算案などについて予定しております。</p> <p>また、次回定例教育委員会の日程でございますが、1月29日火曜日、午後2時からと考えておりますが、各委員のご都合はいかがでしょうか。</p>
長谷川委員長	<p>今ありましたように、次回の定例教育委員会を1月29日火曜日午後2時からということはどうでしょうか。</p> <p>(一同了承)</p> <p>では、次回の定例教育委員会は、1月29日火曜日午後2時から予定しますので、よろしく願いたします。</p> <p>以上をもちまして、第12回定例教育委員会を終了いたします。</p>
	(閉会)

終了 午後4時10分

署名人（委員長） 長谷川 清明

署 名 人 相馬 範子